

佐賀県研究成果情報（作成 2025 年 12 月）

【情報名】「巨峰」におけるアブサップ液剤による着色効果

【要約】ブドウ「巨峰」において満開後 50 日頃（着色初期）にアブサップ液剤（アブシジン酸液剤）を 100 倍希釈で房全体に満遍なく散布することで、着色が促進される。

【キーワード】巨峰、着色、アブサップ液剤、アブシジン酸

【担当】果樹試験場・落葉果樹研究担当

【代表連絡先】0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

【分類】技術者参考

【部会名】果樹

【専門】栽培

【背景・ねらい】

本県では、着色期の高温によりブドウ「巨峰」の着色不良が毎年問題となっておりその対策が求められている。これまでに、着色促進剤としてアブシジン酸を有効成分とする植物調節剤のアブサップ液剤が登録され、九州各県で効果が報告されているものの、県内では検証されていない。そこで、アブサップ液剤の着色促進効果について検証する。

【成果の内容】

1. アブサップ液剤を散布することで、無処理区と比べ有意に着色が促進される（表 1, 図 1）。
2. 果皮色以外の果実品質への影響は無い（表 1）。

【成果の活用面・留意点】

1. 供試樹は場内加温ハウス内「巨峰」（根域制限栽培、17 年生）とし、満開後 35 日に両区とも環状剥皮処理を実施した。また、加温ハウス内の温度管理は佐賀果樹技術者が作成している 2025 年ハウスぶどう栽培指針をもとに行った（表 2）。
2. 本試験ではアブサップ液剤（住友化学社製）をハンドスプレー（図 2）を用いて散布した。その結果、処理房の果粒表面に水滴による果粉溶脱痕が残った（図 3）。果粉溶脱を低減するために噴霧機材は粒子の細かいものが望ましいと考えられる。
3. 本剤の適正散布時期は着色始期～着色開始 2 週間後である。現在の栽培体系では、処理時に袋の脱着が必要であり、労力面で課題が残る。また、袋掛けを遅らせて処理した場合は病害虫被害も懸念される。今後は散布機材の選定とともに、処理のタイミングや防除対応などについても検討したうえで、普及情報としたい。

【具体的なデータ】

表1 アブサップ液剤散布による「巨峰」果実品質への影響

処理区	果皮色 ^z	重さ (g)	粒数 (個)	粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
アブサップ散布区	10.7	337.3	26.5	13.9	18.3	0.56
無処理区	7.4	359.1	26.8	13.5	18.6	0.52
有意差 ^y	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

z:果皮色は農林水産省作成「赤・黒色系カラーチャート」を使用し評価

y:t検定により*は5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なしを示す



図1 アブサップ液剤を散布した「巨峰」果実の着色状況
(左：アブサップ、右：無処理)



図2 散布に使用したハンドスプレー（フルプラ社）



図3 アブサップ液剤散布による果粉溶脱

表2 処理時期の加温ハウス内気温条件

昼温	夜温				室内最高
	日没 ~22時	22時 ~2時	2時 ~日出	日出 ~日没	
25~28	20	18	16	20	28

【その他】

研究課題名：温暖化によるブドウ着色不良対策としてのアブシジン酸液剤利用の検討

予算区分：果樹試験場維持運営費

研究機関：2025年

研究担当者：児玉龍彦、田中つなみ